

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年2月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2272100583
法人名	医療法人財団百葉の会
事業所名	グループホーム百葉二の宮
所在地 (電話番号)	富士宮市北町14-5 (電話) 0544-25-7892

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年6月9日

【情報提供票より】(19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.6

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円~
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	80 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人財団百葉の会湖山病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して1年半が経過するが、地域に馴染んだホームとして位置付けられている。利用者及び家族からの信頼も厚く、またそれに応えるように現在のサービス提供で良しとするのではなく、更なる向上に向けて取り組んでいる。常に、現在行っていることに疑問と課題を認識して、いかに利用者本位のサービスが提供できるかを職員が一丸となって考え、実践している。ホーム内は、居心地良いゆったりと過ごせる空間が設けられている。職員がとても明るく、優しいため、利用者も安心して生き生きと生活している様子が様々な場面で見受けられた。今後もこのような取り組みの継続の期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回がはじめての外部評価受審であるが、評価の意義と役割を十分理解し、職員会議等でも打合せを重ねるなどして真摯に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	上記同様自己評価も全ての職員で取り組み、自己評価結果を書面で確認する等、現在取り組んでいる事柄を常に更に良くしていこうとする姿勢がある。自らを振り返る機会として前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催される会議の主な内容は、ホーム側からの事業報告が多いが、利用者の家族の代表者等から意見や要望を真摯に受け止め、それを実践していくように努めている。サービス向上に繋げる取り組みは何よりも利用者本位に実行していく姿勢で取り組んでいる。会議では、意見も多く検討課題も活発に出されるとのこと。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者及び家族との風通しを良くする雰囲気づくりと信頼されるサービス提供に努めている。家族にも頻繁に情報提供され、意見や要望、相談や苦情にも親身に向き合う姿勢が確立している。家族会が発足し、ホームもそれを支援している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが地域に根付くことこそが、ホームの役割を認識し、開設1年前から地域との関係を深めてきた。自治会にも加入し、回覧版や地域行事への参画により、既に地域に自然に溶け込んでいる。利用者についても理解も進み、近隣住民との関係もとても良い関係となっている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療法人財団全体の理念を基に、ホームの特性と役割を十分認識したホーム独自の理念を有している。地域に根付く、職員も自ら受けたいサービスを提供する理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時には、職員で理念を唱和し確認をしている。職員一人ひとりの一年の目標を決め、管理者、職員ともに協力をしながら、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、職員及び利用者がともに地域に一員になれるような関わりをもって取り組んでいる。町内会行事等にも積極的に参加し、地域にも自然な雰囲気を受入れられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を認識し、職員会議の際に定期的に確認し合う等、全ての職員が積極的に取り組んでいる。自己評価結果等も全ての職員で共有するなどした取り組みが行われた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催し、委員からも前向きな積極的な意見が出されている。会議内で提言されたサービス提供方法の意見や改善方法等も取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との関係は良好で、地域包括支援センターとの連携も積極的に図っている。ホーム運営のあり方等でも話し合いが行える関係づくりが確立している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料請求時には日常の暮らしぶりを伝えるとともに、3ヶ月に一度ホーム便り(新聞)が発行されている。家族の訪問時にも話し掛けを行い、生活の様子を伝えるようにしてる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開いたり、ホームの行事の際には家族を招くなど、家族との関係を深めるように心掛け、気軽に意見を言える雰囲気づくりを心掛けている。利用者の意向も踏まえ、家族とともに一緒に考える関係がつけられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者の馴染みの関係づくりが大切であることを十分に理解し、移動や離職に対する弊害を十分に認識している。職員が働きやすい環境づくりにも配慮し、職員交流や勉強会の機会を提供している。夜勤等の職員配置にも十分配慮が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修計画があり、職員の意向や勤務についても配慮した研修受講支援が行われている。内外の研修プログラムも充実している。法人からもスーパーバイズできる職員がホームに配置されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会もあり、定期的な交流と情報交換が行われている。様々な情報の共有を図り、事例をもちより検討する等、交流を通じて向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームとして体験入居等の必要性を理解している。職員自身が徐々に馴染んでいくサービス提供に至っていないという悩みを感じている。利用者一人ひとりによってそれは異なることであるが、その意識を忘れることがないような取り組みに期待したい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はみんな利用者との関わりや対話を大切に考えている。利用者が発する言葉にも耳を丁寧に傾ける姿勢が訪問時に何度も見られた。利用者との自然に信頼し合える関係となっていると思われた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的な細かなアセスメントを行ったり、家族からの聞き取りや日常生活の様子から利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。何よりも利用者本位を大前提とした関わりをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族も計画策定に参加している。介護計画内容がとても具体的で利用者の細かな支援方法等も記されている。また、より充実した生活に向けた計画ともなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は詳細に記され、計画の見直しも行われているが、見直し方法、経過がやや分かりにくい。記載方法も定まっていない。	○	見直し期日や変更事項の明示等を行い、更なる利用者や家族の共通理解を深めることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設したデイサービス利用等、要望に応じて柔軟に対応するなどして、ホーム機能を踏まえて、心身機能の維持と向上に向けて支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診以外の病院の付き添い等も、利用者や家族の意向を踏まえて支援している。薬の変更や体調の変化などの際は、家族に同行して病院へ行き、かかりつけ医への情報提供も行っている。また歯科医の往診を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への対応等、家族も交えて話し合っているが、その具体的な方針策定にまでは至っていない。かかりつけ医等にも話題を投げかけしている。	○	難しい問題であるが、今後のことを見据えて継続した検討と話し合いを進めていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の羞恥心などに配慮した、プライバシーの保護や個人情報の保持など職員に周知されている。一人ひとりの尊厳を損なうことが無いような関わりが徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが充実した生活が送れるように、利用者のペースに合わせ、それを大切に考えた希望や意向に沿った支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者は、一緒に食事の準備を行い、揃って和やかに楽しく食事を摂っている。楽しい雰囲気づくりにも配慮している。それぞれのペースを尊重したゆったりとした食事時間が確保されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向を尊重し、毎日入浴できるように配慮している。日中であればいつでも入浴することができる。入浴を生活上の楽しみごとの認識の中で、夜間にも入浴できるように検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームが全体的に一つの家族のような雰囲気の中で、利用者もそれぞれが役割を自然に担っている。利用者と職員と一緒に考えて行動したり、嗜好に応じたサービス提供等も自然に行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨天時以外は積極的に外出している。単に外出するだけでなく、季節感を味わうように工夫したり、外食や喫茶店に立ち寄ったりと配慮している。利用者も外出を楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。出入口にセンサーが設置されているが、職員は利用者の行動を見守っている。外出も頻繁に行われるので、センサー音も鳴るが気になるほどではない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防災訓練は行っているが、日常生活で密接に関係している近隣住民にも特に働きかけは行っていない。	○	地域住民との関係も良好で、地域に根付いたホームであるので、災害時等の協力を呼びかけて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に、食事摂取量・栄養バランスなどの記録をとっている。個別に摂取量の設定を行なっているので、体重測定等にて、適当量の確認も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	とても明るく、心地よい空間となっている。食堂には、つるし雛や、ドライフラワーにしたバラが飾られ、生活感などもある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好きな装飾品をと、利用者及び家族に継続して呼びかけているが、やはり環境が異なるとそこまでしてもらえない利用者も多い。無理にではなく、今後も呼びかけ続けていくことにも期待したい。	○	利用者が何をもって居心地よくなるのかを把握して、一人ひとりに応じた呼びかけを今後も期待したい。